

## 愛媛学 第3回 「地域課題の把握と分析、解決の方向性」 レジюме

## ① 地域の課題把握（地域にはどのような課題があるか。地域の課題を把握するためのポイントとは）

- 地域の課題（概観）
  - 土地、施設、交通、自然環境、伝統文化、住民状況、地域資源管理、生活扶助、生産補完、住民のエンパワーメント（持っている力を湧き出させる）の不足
- 課題把握の方法
  - 顕在化している課題のみでなく潜在化しているものも「見える」（顕在化）させて把握する必要性
  - 地域の現状や課題を把握する段階から、より多くの住民が楽しんで参加しやすくする工夫が必要
  - 計画づくりや解決に向け、多くの住民からアイデアを引き出し、前向きな意見・発想ができる環境づくりが重要←解決していく手法やアイデアは今後の計画づくりに反映される。活動を地域住民のエンパワーメントにつなげたり、行政の支援を呼び込む契機にすることが必要
  - 行政資料、住民アンケート調査、新聞記事やニュース
  - ワークショップ（話し合い、現地点検、聞き取り、専門研修）←共感、共有を深められる
- ワークショップの進め方
  - 参加者の選定（重要）：テーマに応じた人選、地域のキーパーソンへの事前相談、性別や各年代、地域外の人への考えも共有することが重要
  - 話し合いの場合：ファシリテーター（会議の促進者、意見を引き出す人）の役割が重要。ブレインストーミング、KJ法、ファシリテーショングラフィックを活用
  - 地区点検の場合：写真に残す。地図に書き留めておく。地域外の人と歩く等日常と違った視点で歩くと新しい発見が生まれやすい。話の内容はできるだけ書き留めておくが良い
  - 聞き取りの場合：より生の意見が聞きやすい。時間と労力がかかるため、地域の規模や課題の重要性に応じて判断する

**※ノート1：テーマ 新聞記事では、地域住民参加によるフォーラムの様子が伝えられています。あなたは、ゴミを減量するための解決策にはどのような方法があると考えますか。またその方法を採用する際の課題にはどのようなものがあると思いますか？**

## ② 地域の課題分析とその解決（地域の課題をどのように分析するか）

- 地域を科学する（目に見える存在：統計データ、アンケート、フィールドワーク成果等を分析し本質的原因を探求）
  - 体験的方法：先入観なく地域を感覚的に体験し、地域の印象を自分自身に焼き付ける
  - 記載的方法：体験したことを言語、記号、数字、図などで表し、集約することで客観的な概念に
  - 分類的方法：記載内容を体系づけ、課題を浮き彫りにする
  - 論理的方法：当該地域の課題に、他地域での実践からの仮説や方法があてはまるか検証（演繹的手法）
  - 理論的方法：当該地域での事象を積み重ね、仮説や法則を作り上げていく（帰納的方法）
  - 実験的方法：地域で現在行われている実践を価値づけし、未来に向けて新しい仮説や法則を生み出す
- 具体的な活動方法（それぞれの得意技を生かしながら、グループで活動する）
  - 地域の印象・資源をメンバー間で共有し、モチベーション維持や目標を共通認識することが重要
  - 活動の内容レベルを理解し、自グループで十分なのか協働が必要なのか整理しながら行うことが重要
  - 活動しながら自分たちにあった方法をブラッシュアップしていくことが必要

● 課題解決に向けた企画に必要な項目

企画の背景	Why	なぜこの企画を
企画の主体と対象	Who & Whom	誰が誰を相手に
企画の内容	What	どんな中身で
企画の方法	How	どんなやり方で
企画の時機と時期	When	いつからいつまでやるのか
企画の予算	How Much	いくらか

- 現象のみにとらわれるのではなく、要因を分析して実態を把握し、その要因を改善し取り除くための具体的な企画を作成し、実践していくことによって地域課題の解決が図れる

※ノート 2: テーマ 教室に配付資料等の残部、ゴミなどが残されている。この問題を自分たちで解決していく企画についてまとめなさい。

学校施設やごみ減量テーマ

新居浜市議会と市民が意見交換

2017年11月22日（水）（愛媛新聞）

愛媛県の新居浜市議会と市民が意見交換する「議会フォーラム2017」が20日、同市一宮町1丁目の市消防庁舎であった。各常任委員会が設定したテーマに沿って、市民団体などの関係者計12人と議員計13人が、市民を前にそれぞれの立場から課題解決に向けた要望や案を出し合った。



新居浜市議会が学校施設の整備やごみの減量に向けた課題について市民と話し合った議会フォーラム

福祉教育委員会は小中学校のトイレ

の洋式化と教室へのエアコン設置を議題とした。学校関係者は「校舎内で熱中症になる生徒がいて心配」「増える授業数を消化するために、夏休みの短縮を視野に入れなければならない。暑さ対策が必要」と状況を説明した。

トイレとエアコンの整備の優先順位について「学校ごとに困っているポイントが違う。実情にあった予算を配分してほしい」との声も上がった。

環境建設委員会は昨年に引き続き、ごみの減量がテーマ。ごみ置き場の管理をしている自治会への加入率低下を含めた地域課題を探った。ごみ袋を有料化する案については賛否が分かれ、議員からは「有料化ありきではなく、新しい方法で自治会をまとめるきっかけづくりにしたい」との意見も出た。

コーディネーターは愛媛大社会連携推進機構の前田眞教授が務めた。22日は企画総務委員会が若者の定住促進、市民経済委員会が地域産業を支える人材の育成確保を議題に話し合う。